

令和 5 年度近畿農政局農業農村整備事業等事業評価技術検討会（第 1 回）
補助事業再評価議事概要

- 1 日 時：令和 5 年 12 月 7 日（木）13:50～15:40
- 2 場 所：滋賀県湖東農業農村振興事務所会議室
- 3 対象地区：①農業競争力強化農地整備事業「田上地区」
②農村地域防災減災事業「安食川Ⅱ期地区」
③農村地域防災減災事業「上野東地区」
- 4 出席委員：藤原 正幸 京都大学大学院農学研究科教授
岡田 知弘 京都橘大学経済学部教授
岩間 憲治 滋賀県立大学環境科学部准教授
浦田 千恵 京都府生活協同組合連合会理事

5 審議内容

（1）国が行う補助事業評価の進め方について
特に意見なし

（2）再評価地区別評価結果（案）について

【①農業競争力強化農地整備事業「田上地区」】

（岡田委員）

事業着手から 5 年経過しているのにも関わらず、換地計画原案ができていない。今回の評価をするために確認したいが、今後の現実的な見通しはどうか。

（杉内補佐）

換地計画原案について、一部合意が取れていない状況で、どのように合意を取っていくかが課題。課題解決にあたり、滋賀県と地元土地改良区において調整を行い、来年度の工事着手に向けて取り組んでいく。

（岡田委員）

補足説明資料の費用対効果分析で水稻が抜けている。

また、農作業のところで、キャベツを集落営農ですることは厳しいという風を感じる。作物と営農の分担関係は把握されているか。

（杉内補佐）

作物と営農の分担関係は滋賀県が把握されていると思われる。

（岡田委員）

資材費の値上がりがある中で、金額を変えずに新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めるとのことだが、どこまでコスト縮減出来るのか、また事業は完了できるのか。

(杉内補佐)

今後の物価高騰の状況は今時点で読めない。現時点における金額の見通しで、評価していただくことになる。

(岡田委員)

今の価格上昇はオイルショック並みであり、見直すべきだと思う。

(藤原委員)

換地計画原案は事業着手前に決まるものではないのか。

(杉内補佐)

事業着手後に委員会を設立して策定するため、事業着手前に決まっていない。

(藤原委員)

別紙様式1の主要工事計画について、暗渠排水4haは区画整理88haに対して、それだけしか必要ないということか。

(杉内補佐)

おっしゃるとおり。現況の地下水の状況等から必要な面積を計画している。

(藤原委員)

別紙様式3の(3)年総効果額の総括における食料の安定供給の確保に関する効果の維持管理費削減効果がマイナスとなっている理由は何か。

(杉内補佐)

用排水路が現状土水路だが、整備後は二次製品を用いた水路になることで、水路に堆積した土砂の撤去や畔の草刈り面積などが増え、維持管理費用が増加するためマイナスの効果として計上されている。

(岩間委員)

別紙様式1の(オ)環境等の調和への配慮について、具体的にどのような生き物がいて、どのような対策を行うのか、情報はあるのか。

(杉内補佐)

事業策定時には検討を行っているが、本日情報を持ち合わせていない。本件については、本検討会(第2回)で回答させていただく。

(岩間委員)

環境への配慮も行っていることを PR することで、事業への理解も得やすくなると感じる。

(藤原委員)

環境への配慮に関連して、排水路の堰上げとあるがゆりかご水田のことか。

(杉内補佐)

ゆりかご水田ではなく、排水路に堰板を設けて、排水路に淀みを作る計画としており、今後業務の中で詳細に検討していく。

(岩間委員)

整備した後に誰がどのように管理するということろまでストーリーがあれば良いと思う。

(浦田委員)

この事業は地元からの要望で行われるのか。

(杉内補佐)

おっしゃるとおり。

(浦田委員)

大区画化することによって、元々生息していた生き物の住処が失われるのではないか。

(杉内補佐)

環境に配慮した取り組みを事業の中の一環として計画されており、生き物の住処が失われないように配慮することとなっている。

(岡田委員)

集落営農組織ができる見通しはどうか。

(杉内補佐)

現時点では不明な状況である。

(岡田委員)

都市部では宅地転用を望んでいる農家も多い。集落営農組織でしっかり農地を守っていくと共通認識のもと、事業を進めることが望ましい。

(藤原委員)

工事中は営農できないのか。もし、できないのであればどれほどの期間となるのか。

(杉内補佐)

一作は休耕していただくことになる。

【②農村地域防災減災事業「安食川Ⅱ期地区」】

(岡田委員)

補足説明資料の 1. 事業概要の被害が分かる写真について、場所と年次を追記した方がよい。

(田仲課長)

追記する。

(岩間委員)

整備後の通水断面は事業実施後にどれくらい大きくなるのか。

(田仲課長)

計画としては 10 年に 1 度程度の大雨に対応できる断面となる。

(岡田委員)

以前の計画と本事業の計画を農地面積等諸元が分かるように整理することで事業効果が分かりやすくなるのではないか。

(田仲課長)

諸元等整理して追記する。

(藤原委員)

別紙様式 1 の (ア) 事業の進捗状況の①にて、想定より軟弱地盤であることが確認されたため護岸構造の見直しが必要になったことから進捗が遅れたとのことであるが、具体的に当初計画からどのように見直したのか。

(田仲課長)

調査の結果、軟弱地盤であることから、矢板の構造について、設計変更が必要となり、矢板の厚さ等の見直しを行っている。

【③農村地域防災減災事業「上野東地区」】

(藤原委員)

集水井を設けるところはどのような基準か。

(田仲課長)

事前にボーリング調査を行い、水が集まりやすい地形の位置に設置している。

(藤原委員)

別紙様式 1 の (ア) 事業の進捗状況の①で、着工後 3 年間については動態観測及び地下水の観測を実施しているとあるが、事業着手前にやるのではないか。

(田仲課長)

もちろん事業着手前にも実施しているが、より精度を高めるために継続的に実施した。

(藤原委員)

一般的なやり方なのか。

(田仲課長)

本地区は平成 23 年時の大雨により、地盤変動が見られたことから事業着手を急いだ。調査については、チェックも兼ねて事業実施後にも継続的に実施している。

(岡田委員)

集水井の水は常に出ているのか。例えば大雨が降った際は出るが、通常時は水が出ないとか。また、地下水の再利用方法については考えられているか。

(田仲課長)

雨が降っていない場合でも場所によって、水は出ている。地下水の再利用について、現状では考慮していない。

(藤原委員長)

ほかに何も無いようであれば、これで議論を終わりたいと思います。本日の審議を踏まえて、事務局は評価結果書の修正をお願いします。

以 上